

しかおい

鹿追町議会だより

第114号

予算 24年度予算議決

2

2012 主要な事業をピックアップ

6

予算委員会質疑応答

10

一般 5人の議員が問う

12

5つの議会提言

15

特集 基本条例施行から1年

16

□ 2012年4月25日発行

□ 発行所 北海道鹿追町議会

【E-mail】 gikai@town.shikaol.lg.jp

【URL】 <http://www.town.shikaol.lg.jp/>

鹿追町の魅力発見！フォトコンテスト2011 大賞作品
「天の川・リバーサイド野営場」 撮影者：岩崎量示さん（上士幌町）

住民生活に直結した予算編成

防災体制、健康づくり
に重点

3月定例会は3月6日から27日
までの22日間で開催され、新年
度予算等46件を提案通り全員賛
成で議決し、閉会しました。

24年度予算成立

総額 81 億 2224 万円

鹿追町の魅力発見！フォトコンテスト2011 入選作品
「子どもずもう」 撮影者：三反崎順也さん（鹿追町）

24

町の予算状況

会計名	予算額	増減比率	採決の状況	
一般会計	57億5500万円	8.8%	可決	
特別会計	国民健康保険	7億3869万円	△7.6%	可決
	老人保健	0万円	0%	—
	病院事業	8億1233万円	△15.9%	可決
	簡易水道	1億2259万円	0.5%	可決
	下水道	2億2429万円	2.4%	可決
	介護保険	3億9975万円	0.2%	可決
	後期高齢者医療	6957万円	17.6%	可決
計	81億2224万円	3.4%	—	

※予算額は端数の整理のため各予算額の合計と一致しません。また、平成23年度は骨格予算編成のため前年度比は平成23年6月末との比較を載せています。

新年度予算

平成24年度鹿追町各会計予算等審査特別委員会（川染洋委員長）では、一般会計及び6特別会計の審査を9日に行いました。予算規模は、一般会計で

57億5千5百万円、特別会計では老人保健特別会計が廃止予定のため6特別会計で23億6千7百万円。全7会計で約81億2千2百万円の予算です。昨年度と比較して2億6千5百万円の増になっています。

執行方針

「原子力のエネルギーの恩恵を受けている以上、原発の問題と向き合い、自治体のあるべき姿を描く必要を感じる」

執行方針は町広報誌に掲載されています。



吉田町長は、執行方針の中で「財政状況は健全性を維持している。引き続き計画的で効率的な運営に努め、地域特性や資源を生かし、自主自立した行財政運営をすすめる。協働のまちづくりを進めるため、広報広聴活動の充実が不可欠。また、農業生産額は史上最高の169億円を記録したものの、農業を取り巻く環境はめまぐるしい変化があり、万全の対応をしたい」とのべました。

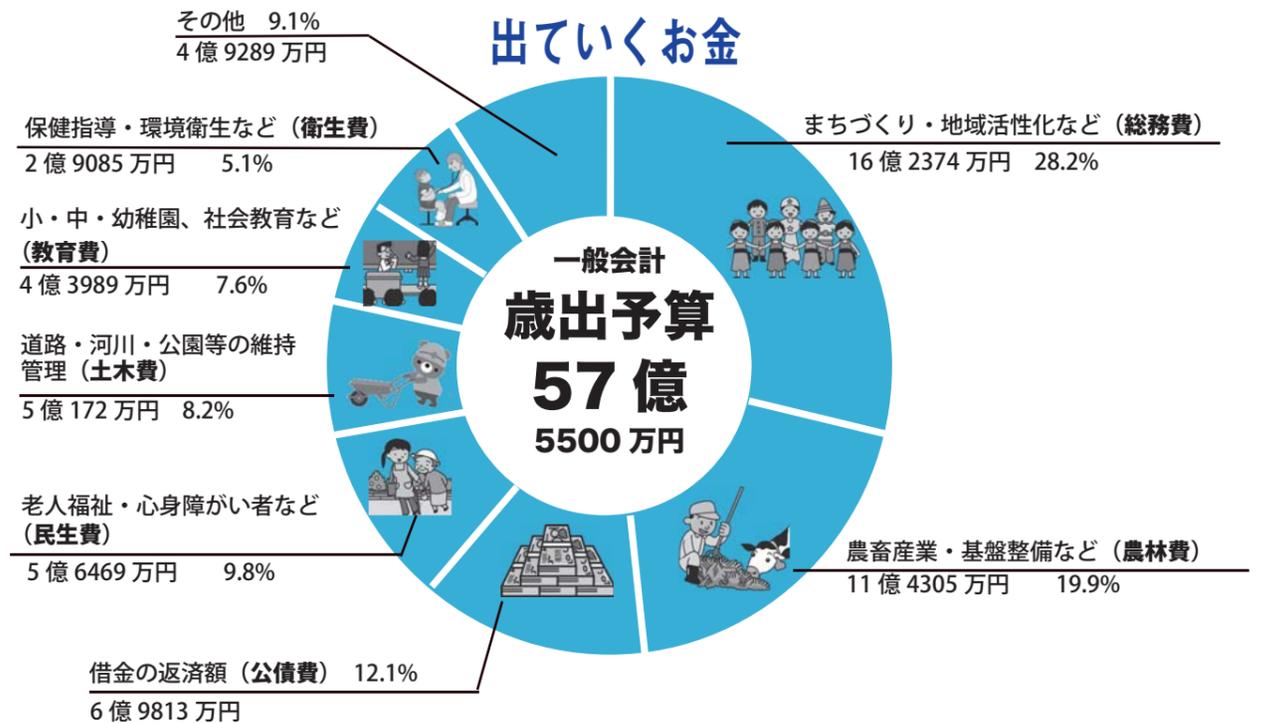
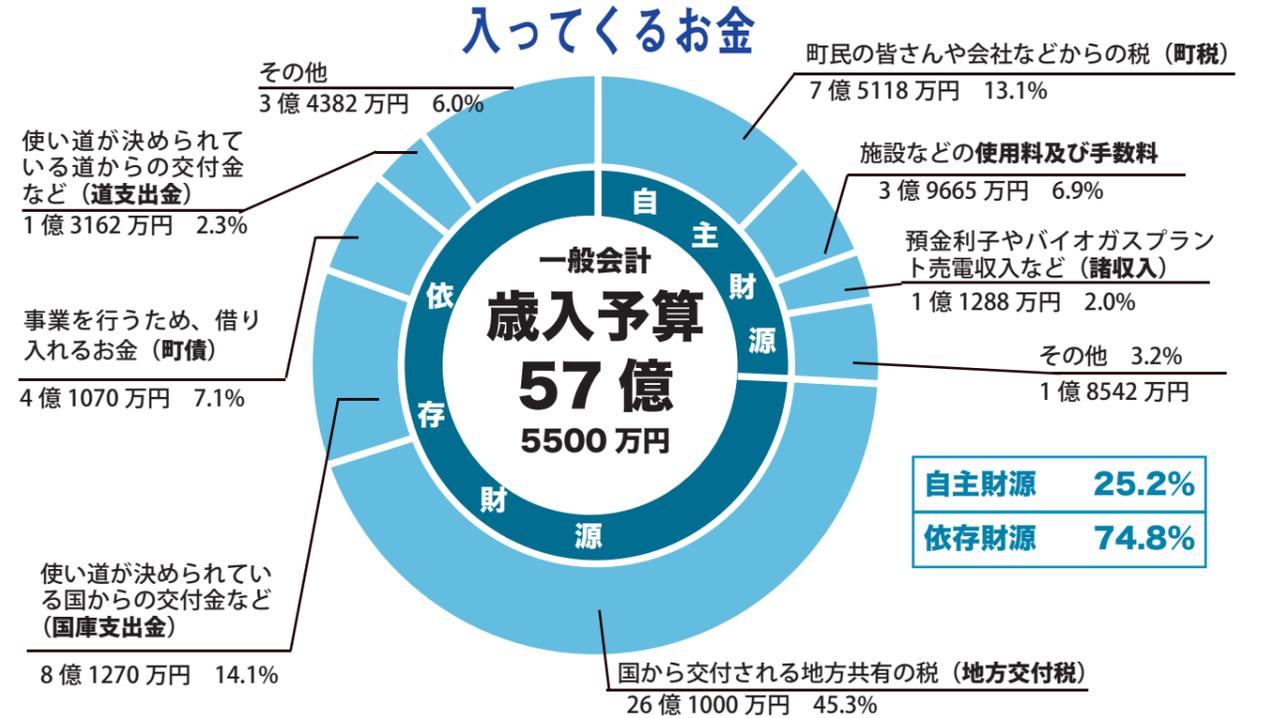


一般会計だけでは4億6千4百万円の増で、これは継続事業の瓜幕川用水施設整備事業及び東瓜幕西19線改良事業をはじめ、土地改良事業や暗きよ排水事業などの農業基盤整備事業の増、公営住宅建設費の増によるものです。

歳入（円グラフ参照）のうち、町税については対前年比4.3%増の7億5千万円。地方交付税については、地方財政計画を勘案した26億1千万円が計上されています。

歳出では、経常経費について、新規施策をのぞき昨年と同程度の規模となり、投資的な経費としては前述の農業基盤整備、道路事業等景気対策を意識した予算となっています。

また、防災体制の強化や、健康づくり事業など住民生活に関わりの深い事業にも配慮した予算となっています。



条例

最高5千円の家賃を助成

鹿追町民間賃貸住宅家賃助成制度

まちの活性化をめざし、町内の民間住宅に居住する者に対して家賃の一部が助成される条例です。

助成対象者は民間の賃貸住宅に居住し、世帯員全員の前年所得の合計額が2億2700万円以下（給与収入で3億5000万円）の町内在住者です。

- この条例の目的は、
- (1) 定住人口の増加
 - (2) 経済の発展
 - (3) 住民生活の安定
- にあります。

議会では、従来から継続の定住促進住宅建設奨励制度と賃貸住宅建設促進事業制度の1年の期限延長とあわせ全会一致で可決しました。



ワーキングセンターでの加工実習

農畜水産物の6次化を推進

農畜水産物の加工と開発研修

【鹿追町ワーキングセンター】農畜水産物を加工製造することで、地場産業の育成と地域農業の振興を進めるため、従来の鹿追町ふれあい農芸公園設置等に関する条例を廃止し、鹿追町ワーキングセンター設置及び管

理に関する条例を新規に制定しました。

ワーキングセンター内に新たに生肉加工室と惣菜室を増築し、それともない料金体系等の改正を行いました。

6次産業化とは、農業や水産業などの第一次産業が食品加工・流通販売にも業務展開している経営形態を表します。

同意

固定資産評価審査委員に上村政浩氏を選任

坂本圭三氏が3月29日に任期満了となるため、固定資産評価審査委員に上村政浩氏（上然別）の選任（新任）提案があり、これに同意しました。

人権擁護委員に森末彰徳氏を推薦

葛西節子氏の後任の人権擁護委員に森末彰徳氏（仲町4）の推薦（新任）提案があり、これを適任としました。

請願

畜産物の価格決定等に関する請願

提出者
鹿追町農民団体連絡協議会
会長 上嶋誠一
鹿追町農業協同組合
組合長 佐藤雅仁
紹介議員
狩野正雄・山岸宏

総合的な酪農・畜産政策の推進のため、加工原料乳生産者補給金の適正な単価と限度数量の適正な水準の確保。牛肉・豚肉生産の安定確保。食料自給率の向上や農業の多面的機能の実現にむけた実効性のある酪農・畜産政策の推進。担い手対策の確立等の請願は本町の基幹産業の農業を守る観点から採択しました。

更にTPP交渉参加断固反対など国際自由貿易交渉に対する意見を付与し、意見書として内閣総理大臣をはじめ関係機関に提出しました。

クローズアップ 2012 主要事業

いずみの団地第4次分譲販売

2513万円

本年度は、団地内の泉町4丁目西通り改良舗装事業を実施します。また、1区画140坪から180坪の分譲地販売を引き続き行ないます。



いずみの団地分譲地

防犯・防災備蓄の充実

1450万円

防災の拠点となる役場庁舎の耐震改修設計やその他公共施設における自家発電設備の機能強化に向けた調査を実施します。また、災害時の救急資材の整備や食糧備蓄を進めます。



町の防災備蓄備品

ジオパークの調査

246万円

ジオパーク登録認定に向けた調査研究事業を実施します。



鹿追町の魅力発見！フォトコンテスト2011「然別初秋」撮影者：片山佑二さん（中札内村）

農業基盤整備事業

道営土地改良事業

6290万円

鹿追地区暗渠排水事業
及び農地保全事業

1億5840万円

国営事業、道営事業及び補助事業により、昨年の集中豪雨対策を進め、きめ細かな基盤整備を行ないます。



東瓜幕地区の暗渠工事

民間賃貸住宅家賃助成

594万円

助成対象住宅として登録された民間賃貸住宅（1団地4戸以上）に入居する町民に対して、家賃の月額から2万5千円を控除した額の2分の1（5千円限度）を助成します。助成期間は、最長3年間で所得制限があります。



民間賃貸住宅

ボランティア組織育成補助金

300万円

地域での助け合いや声かけなどの事業を行なうボランティア組織の育成や、各種活動に対する助成を行ないます。

民間賃貸住宅助成に期待



南町1
渡辺真琴さん

家賃助成は大変助かります。少しでも多くの人が定住してくれるといいですね。

瓜幕地区バイオガスプラント建設

1722万円

家畜ふん尿を利用する、瓜幕地区バイオガスプラントの調査設計予算を計上し、具体的な取り組みを進めます。



基盤整備で効率的な畑づくりを！



東瓜幕
松浦 修さん

昨年の9月の大雨で畑がぬかるみ、苦勞して馬鈴薯の収穫をしました。こういう年にも備える意味でも基盤整備の必要性を感じます。大型機械で、効率の良い作業が出来る圃場づくりを進めたいです。



クローズアップ

2012

継続事業



鹿追町の魅力発見！フォトコンテスト 2011
「然別川左岸」 撮影者：高瀬美里さん（鹿追町）



鹿追町の魅力発見！フォトコンテスト 2011 金賞作品
「冬到来」 撮影者：田澤康史さん（奈井江町）



鹿追町の魅力発見！フォトコンテスト 2011 入選作品
「朝霧幻想」 撮影者：稲村雅子さん（江別市）

鹿追町の魅力発見フォトコンテスト（継続）

200万円

昨年実施された「鹿追町の魅力発見！フォトコンテスト」395名の方々から1585点もの作品が寄せられました。多くの方々が、鹿追町を訪れ、空気感を感じ、魅力を掘り起こすこの事業は今年度も、昨年に引き続き、同規模の予算で開催されます。大きな効果が期待できます。



厳正な審査が行われました。

フォトコンテストの成功を祝い



鹿追光画会会長
北町4 井関 一さん

この事業を実施して頂いた事は、写真を愛し楽しむ私達にとりましても我が事のように嬉しく積極的に参加させて頂きました。

デジカメの普及により、今や国民総カメラマン時代と言われており、写真の持つ発信力は大変大きいものと思いません。

今後この事業が継続して行われ、自然の景観に恵まれた鹿追町に行く時には「カメラを持っていけ」と言われるほど、「写真の町鹿追」のイメージが定着すると大変嬉しいと思っています。



つぶやき

■帯広・東京間の航空会社2社のダブル化から1年。どの便も満席とくれば機材を大型にすることが地域活性化の切り札では。

The 予算・質疑

3月9日に開催された予算審査特別委員会（川染洋委員長）で、冒頭昨年（2011）年の3.11東日本大震災で犠牲になった方々に黙祷を捧げた後、平成24年度の予算を審査、すべて原案どおり全会一致で認定しました。

教育費



給食での地場産品利用

Q 共同調理場での地場産品の利用状況は。

A 全体で約40%。ワーキングセンターで生産される加工品の活用も今後検討したい。

学校のホームページ

Q 町内の各学校のホームページに統一感が必要、更なる充実を。

A 統一感のあるものに整備を進める。

土木費

防雪林の整備

Q 景観の観点から道路脇に防雪柵ではなく、防雪林を整備する考えは。

A 防雪林の木が育つのを待ってられない状況がある。また、農地に隣接している場合、林では困る農家もでてくる。



公営住宅の修繕

Q 公営住宅の修繕の基準は。

A 次の入居者が清潔感をもって入居できる状況の確保。

商工費

かんの温泉

Q 閉鎖されている然別峡の菅野温泉の今後の見通しは。

A 民間の協議になるので、正式に取得等の話は町にはきていない。環境省等への許可の関係もあり、町としては成り行きを見ている状況。

観光インフォメーション

Q 町の顔にもなる観光インフォメーションの活動は？

A 道の駅しかおいにおいて観光インフォメーションを町が委託している。インフォメーションのあり方を検討している。鹿追のスタイルにあったものを模索。

農林費

町営牧場の整備

Q 町営牧場の面積を増やすための用地確保の状況と今後の整備の予定は。

A 牧場周辺の土地の取得について所有者との話し合いがされている状況。森林を伐採して牧場を広げる計画。

パドック（牛の放牧場）、バンカーサイロ（牛の餌貯蔵施設）、牧場の整備を進めます。



環境保全センターの運営

Q 環境保全センター（バイオガスプラント）の将来的な町の負担をどう考えるか。

A 経済的に将来自立していく方向にもっていきたい。処理後にできる肥料効果が期待できる消化液の価値の見直しや、売電価格の引き上げに期待する。

新規作物の開発

Q 新規作物の開発への取り組みについては。

A バイオガスプラントの熱を利用した2棟のビニールハウスでサツマイモの育苗と生薬（しょうやく）の研究をする。

民生費



将来のゴミの処分

Q 上幌内にあるゴミの最終処分場も恒久的なものではない、次のゴミ処理への対応は。

A 現在最終処分場は47%弱の埋立て率。平成30年度まで使用する予定。
平成25年までに次の施設について計画をたてます。



ボランティア組織の育成

Q 障がい者や高齢者に対する支援ボランティアの組織育成が予算化されているがその方法は。

A 町内の地域、行政区、個人の提案をもとに組織の育成を進めていきたい。各団体との細かな調整も今後必要と考えている。

総務費



役場庁舎の耐震化

Q 災害の際、防災拠点となる役場庁舎の耐震診断の結果はどうだったのか。また、防災対策備品の整備状況はどうなのか。

A 耐震調査の結果、弱いところがあり国の事業を使い耐震工事を進める。防災備品についても新年度予算で対応する。



子ども宿泊体験事業

Q 予算化されている子ども宿泊体験は何を対象として、その目的は何か。

A 都市から農村漁村へ民泊も含めた交流、その基礎づくりが目的。被災地からの子どもの受け入れも検討している。

やぶさめ大会

Q うりまくライディングパークで実施していたやぶさめ大会の今年度開催は。

A 例年好評でしたが、馬の移動が困難という事で、今年は開催できないと主催団体からの報告がありました。

予算審査特別委員会を 傍聴してみよう



北瓜幕 藤田 富士雄さん

答弁する職員が意欲的に応答していると感じた。反面、質問者の議員に再質問や意見が少なくさびしい感じだ。すぐに結論の出ないものもはもともとと議論すべきだ。
予算委は昨年（2011）年と同じ1日で終わった。予定の3日はなんなのか。議会に対し町民の思うところは！



東瓜幕 佐藤 年樹さん

委員会の前に議場の全員で東日本大震災で犠牲になられた方に黙とうされたのが印象的でした。
議員全員が活発に質問され、真剣に取り組んでおられると感じました。
昔は、委員会室で予算委員会を行い、意見は少数、傍聴者もありませんでした。



町政を問う。

5人の議員が一般質問

学校教育

Q 自然体験留学の課題

A 情報収集と情報発信で充実



狩野正雄議員

町にきている。町にとっても瓜幕地域においても、地域の活性化に大きな役割を果たし、定住された方は地域を支える原動力になっている。

この制度には瓜幕地域の皆さんの支援と協力が必要でした。留学制度の評価と今後の存続への課題は。

(質問) 昭和63年5人の中学生を受け入れてスタートした瓜幕地区の自然体験留学制度は、今年で25目になる。
この制度がきっかけで多くの子ども達やその家族が里親、留学センター、親子留学などの形態で本

(答弁) 吉田町長 自然体験留学制度は当初5人の里親から始まり、平成23年度の現在まで

で延べ人数435人、実数にして214人である。留学生のほとんどが、地域になじみ、地域の子ども達と一緒にスケートや滑り、一輪車に乗り、馬とふれあい、地域の行事に参加することにより、第二の故郷として感じていただいている。この制度がきっかけで町内に定住された方は23世帯になり、本町の留学制度は全国的に高く評価されている。しかし、山村留学制度は全国的には廃止や減少の傾向にある。学校の統廃合や経済状況の冷え込みが教育にも大きく影響している。留学センターの維持経

(質問) 平成24年度の留学予定数と鹿追高校への進学者累計は。
(答弁) 白井教育委員長 小学校10人、中学校6人、これまでの鹿追高校への進学者数は35人。



瓜幕自然体験留学センター 体験学習

地域活性化

Q 国策の活用を

A 国との協議に入る計画



武藤敦則議員

おこし協力隊」がある。都市部の人を過疎地域に3年移住させ地域課題の解決に活躍してもらう制度。わが町での活用は是非について町長に問う。



ビュアモルトクラブハウスでの交流事業

域経済の活性化や地域住民との交流によるコミュニティの再生など、様々な効果も期待される。本町が現在計画を進めている「子ども農村漁村交流プロジェクト」をはじめ、「観光振興」、「農業振興」等の分野での活用を視野に、新年度からの導入に向けて国からの協議に入る計画を進める。

(質問) 平成10年に建設されたピュアモルトクラブハウスは、農村と都市の人的交流に大きな役割を果たしている。このような取り組みを進め、定住される方が1人でも増える事を期待している。
総務省の事業に「地域

(答弁) 吉田町長 国からの支援は、隊員1人あたり一年間350万円を上限に、最大3年間、特別交付税で措置される。意欲ある都市住民を、地域社会の新たな担い手として受け入れることによる定住人口の増加、地

費は1000万円程度で、事業の経費に充てるため独立行政法人青少年振興基金の助成金を活用するなど必要な情報の収集に努めるとともに、新たな情報発信にも努めたい。

(質問) 平成5年にセンターを改修して以降、必要に応じて修繕を行っている。現状では改修計画は持っていない。住宅の確保も、現在ある施設を利用してもらっている。不



瓜幕自然体験留学センター 体験学習

狩野 正雄議員

自然体験留学制度の実績と課題



武藤 敦則議員

更なる地域活性化を・国の政策の活用



台蔵 征一議員

「自然体験留学制度」のこれからは



山岸 宏議員

新規採用職員や若手職員に対する職員研修の更なる充実を



飯沼 新吾議員

行政区の地域交流活動に対する支援対策は



学校教育

Q 自然体験留学の今後

A 必要な対応を考える



台蔵征一議員

(質問) 留学センターも改修後建物の断熱効果も下がり、傷みも出て来ている。改修・改築の計画はどうなっているのか。
また、親子留学・移住で来る家族を安定的に受け入れられる住宅が2、3戸必要と思うが。

(答弁) 吉田町長 施設の必要があれば、いろいろな手だてを考えたい。決して後ろ向きには考えていない。留学生が増える場合は必要な対応を考える。

(質問) 地域の交流の場として、農業研修生の受け入れ

れや山村留学の子ども達の宿泊施設として運営している交流センターのような施設を設置している地区もある。このような施設設置の考えは。



議会からの5つの提言

議会基本条例に基づき、議員同士の討議を行い町長に対し、次の5つの提言を行いました。

職員研修

Q 更なる充実を

A 積極的に進めたい



山岸 宏議員

(質問) 新規採用職員、若手職員の研修は、民間企業の事前研修と比較すると少ないと感じる。今後、協働のまちづくりを進めていくためにも更なる充実が必要ではないか。

(答弁) 吉田町長 町独自の研修として、ごみ分別作業や花作業、更には介護体験などを実施し職員としての素養を身につける研修を行っている。若手職員の青年活動等へ

の参加や協働のまちづくりを進める上でも重要と考え、今後とも積極的に進めたい。

(質問) 今まで採用内定での研修は行っていないのか？

(答弁) 大井総務課長 今のところ行っていない。

(答弁) 吉田町長 成績が職員として問題があるようであれば、更に試用期間を6ヶ月延伸する。職員として基本的な素養を持っていない職員もいると考えているので、今後はしっかりと内部研修を通して身につけさせていきたい。

(質問) 今後更に研修、接遇、身だしなみには厳しく指導していただきたい。

(答弁) 小林教育長 指導していきたい。



自衛隊鹿追駐屯地での役場職員研修



飯沼新吾議員

町内会活動

Q 支援は出来ないか

A 更なる支援を進めたい

(質問) 行政区、町内会の活動は、町民が安全で安心して生活するためには、重要な役割を担っていると思うので、町としてその活動にアドバイスや活動費の助成などができないか。

(答弁) 吉田町長 町では、行政区長会議、主要懸案事項説明会などを通してまちづくりの課題共有や意見交換をしており活動補助金を交付している。

(質問) 町内会で住民がコミュニケーションを円滑にするような行事に対するメニューの提示やアドバイスができないか？

(答弁) 吉田町長 素晴らしい活動をしている地域もあるのでそれを模範として、行政側も共に学ぶという姿勢で地域のリーダーの養成、研修を行う必要があると考える。



笹川地区の子ども相撲

☆提言1

姉妹友好都市の交流促進

民間交流が進められている東京都台東区との友好親善交流は、行政・議会・民間と一体となった一層の促進を。

(回答) 交流のより一層の促進を図りたい。互いに子どもの交流を推し進め、将来的に物産の販売を目指したい。

☆提言3

道々85号線鹿追糠平線の通年開通の模索を

然別湖と糠平をつなぐ道々85号線鹿追糠平線は、観光地を結ぶ道路であり、冬期間観光振興策のポイントとなる。通年開通の方向性の模索を。

(回答) 上土幌町、関係諸団体との情報交換、連携を取りながら進める。

☆提言4

企業(ホームセンター)進出

ホームセンターの町への進出は、利便性、雇用も生まれ、消費者の選択にもつながる。町有地との土地の賃貸契約は慎重に。

(回答) 出店には前向きな返事を行った。 ※面積3千350㎡、9月中のオープンを予定。

☆提言2

鹿追町民花火大会の継続

鹿追町のイメージアップにも繋がり経済波及効果も見込まれるため継続的な開催が必要。開催周知もPR活動を重ねて早期に推進することが重要。

(回答) 町外からの来客も大勢見込め、経済波及効果が生まれる。新年度3百万円を予算化、花火募金等も検討。 7月28日(土)開催を予定。

☆提言5

農家周辺の環境整備の推進

農家周辺の環境整備は防疫の視点からも鹿追町農業を守るため、農村と都市の在り方の全国のモデル的な事業として推進を。

(回答) 農村と都市の在り方に必要な計画を一年かけて策定(町・大学・営対協)。景観、環境、衛生等全体を考慮し、交流人口の増も模索する。



つぶやき

■パン用小麦「ゆめちから」。鹿追でも今秋から播種。面積は十勝1。モチモチ、しっとり、小麦の味が際立つ。

議会基本条例が始まってもうすぐ1年。 何か変わったんだべか?」

「住民参加型の開かれた議会」との思いで、議会の最高規範である議会基本条例が制定され、5月1日で1年になります。
この1年で何が変わったのか考えてみます。

まちなか会議の開催

「まちなか会議」を懇談会・報告会・および懇談会等の町民との意見交換の場として制度化しました。町民や各団体組織に「まちなか会議」の呼びかけをし、ほぼ1年を経過した現在まで11回の「まちなか会議」を開催しました。

「懇談会」

1	1 ワーキンググループとの懇談 産業厚生常任委員会 5月27日開催 6人出席	内容 ・地場産品を使用した加工品等の販売促進 ・その他
2	2 ワーキンググループとの懇談 産業厚生常任委員会 9月29日開催 4人出席	内容 ・町の農産物の6次化を目指し、加工品の製造から販売まで取り扱う(株)草原の風の取り組みと、地場産品加工施設に係る整備の必要性について説明を受けました。



3	3 各校長・教員委員との懇談 総務文教常任委員会 10月31日開催 16人出席	内容 ・小中高一貫教育の取り組み状況 ・特別支援教育の取り組み ・研究開発指定校のあり方 ・所管事務調査のあり、11月17日に文部科学省を訪問し、研究開発指定校の延長を要望しました。
----------	--	--

4	4 然別湖ホテル関係者との懇談 産業厚生常任委員会 11月25日開催 2名出席	内容 ・地産地消連携キャンペーン ・幌鹿峠の道路復旧と通年開通 ・地産地消は積極的に支援を実施します。幌鹿峠の通年開通は、町理事者へ議会から提言を行いました。
----------	--	---

5	5 議会報告会(元議員等)との懇談 鹿追町議会 12月7日開催 11名出席	内容 ・議会報告会 ・議員の町内行事への積極的な参加 ・議員の勉強不足、専門職等としての育成などの指摘について議員間で協議・検討をしています。
----------	--	---

「議会報告会」

議会報告会は昨年の6月定例会の報告から現在まで4回開催しました。会場は町議会議場(平成24年4月は、ほへみプラザで開催)とウリマックホールの2会場で行われ、延べ

参加町民は61名でした。定例議会で審議されました内容の報告とあわせて、出席者からの質疑応答、要望等への回答等を行いました。随時、広報紙に議会報告会の関連記事が載せていますが、総じて瓜幕地区では、新規に計画されている家畜ふん尿を利用したバイオガスプラントについて関心が高く、酪農家の参加負担金や発生する電気エネルギーの有効利用といった具体的な質疑意見が多く出されました。

また、鹿追地区では議会のあり方ありように対する意見要望が多

議会報告会

議会報告会は年4回の定例会終了後に毎回鹿追会場と瓜幕会場の2カ所で行われます。



つぶやき ■いよいよ農作業も進んでるようです。農作業事故の無いように気をつけましょう! 豊作になりますように。

く、持ち帰り検討、更に協議を進めているものもあります。

要望・意見等はその場で回答できるもの、町に議会として要望、要請するもの、その他諸団体と協議が必要なものの、議会での議論が必要なもの等様々な対応が必要となります。随時広報紙（7月、10月の広報紙に記事を掲載）や議会ホームページ、議会報告会を通じて回答・報告を行いたいと考えています。

「およばれ懇談会」

1 商工会役員との懇談

鹿追町議会
9月5日開催
15名出席

内容

- ・プレミアム商品券による町の活性化
- ・国、道による発注工事に対する地元事業者の参入
- ・除雪、草刈り等の最低保障委託料のアップ

議会として

- ・プレミアム商品券は後日、議会へ要望書として提出され協議しました。
- ・地元事業者の参入は十勝が一体となつて対応する必要があるため、商工会でも組織として国・道に要望をあげて欲しい旨の提案を行いました。
- ・最低保障等の関係は議会として町へ要望書を提出しました。

2 町観光協会・道の駅しかおい、うりまく関係者の懇談

産業厚生常任委員会
11月10日開催
9名出席

内容

- ・道の駅の振興策
- ・観光振興策

議会として

- ・議会で実施した案内看板の調査の報告を実施しました。
- ・町の観光振興指針としての「観光振興条例」の検討を行いました。
- ・道の駅を中心とした観光の取り組み等について引き続き関係団体と協議を行う事を確認しました。



道の駅しかおい

第三者審議会の設置



第1回 第三者審議会

反省課題として
今後の取り組みとして、町民の組織団体に気軽に開催の申し込みをしていただけるように呼びかけをするとともに、町民から頂きましたご意見やご提言について、迅速に対応できるよう取り進めます。

鹿追町議会基本条例

に基づく「鹿追町議会議員定数・報酬及びあり方等審議会」（第三者審議会）を昨年9月9日に設置しました。

審議会は、5人の町民で構成（安藤輝雄会長）され、議員の定数・報酬はもちろん鹿追独自の議会活動のあり方や、議会システムまで多様な案件を議長の諮問に応じ審議をおこないます。

- ① 議会白書について
- ② 議会のインターネット中継配信について
- ③ 議会ホームページについて

答申は今年の8月31日までにされる予定です。

政務調査費の交付

政務調査費は地方自治法に基づき、議会議員の調査研究のために必要な経費の一部を条例に基づき交付するものです。

年額12万円を限度とし、規則に定める用途基準に従い、適正に使用しなければなりません。

また、政務調査費に係る調査報告書と収入及び支出の報告書、領収書等の提出等、厳格

な報告が義務づけられています。

更に、適正な運用を期するため順次、調査及び審査を行い、第三者審議会にその用途や調査研究の内容について諮問し、意見を求めることとしています。

本年度は総額約69万円の交付がありました。

詳細は町議会ホームページにて公表しています。



政務調査費による講演会の開催

広報活動の充実

議会基本条例では、町民主体のまちづくりの一翼を担う機関としての役割を果たすため、議会における広報広聴を重要活動として位置づけ、情報を配信することが定められています。

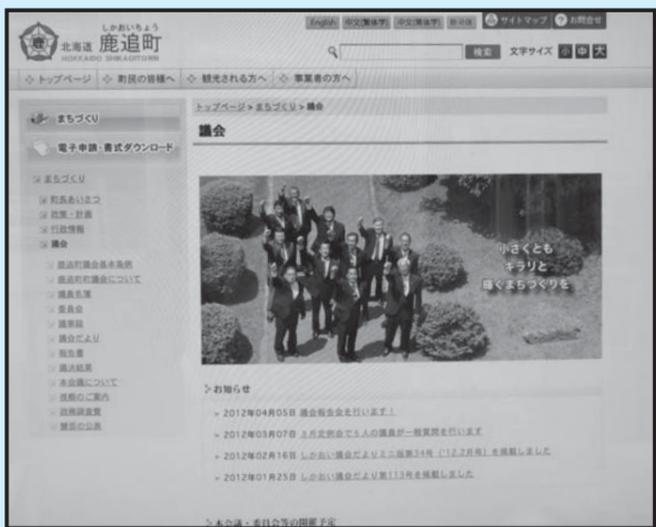
昨年からは、議会広報紙、議会ホームページ、報告会等を通して可能な限りの情報を提供し広報広聴活動の充実に取り組んできました。

また、昨年からは広報特別委員会を広報広聴常任委員会に編成し直して、より一層の充実を図っています。

議会ホームページ

昨年の12月に、議会のホームページを一新しダイレクトに情報を議会から発信することが可能になりました。次の内容を公開しています。

- 鹿追町議会基本条例
- 議員名簿
- 議事録
- 議会だより
- 委員会報告書
- 本会議について
- 議決結果
- 視察のご案内
- 政務調査費
- 賛否の公表



鹿追町ホームページ・議会トップページ

【URL】 <http://www.town.shikaoi.lg.jp/>

「1年でけいこう変わったしよ」



つぶやき

■国民年金の納付率、56.5%。2014年には2人の納付者で1人の受給者を支えるこの数字どう思う？



自衛隊協力会 女性部発会式



自衛隊協力会女性部
女性部長 鈴木朝子さん

3月8日町民ホールにおいて、自衛隊協力会女性部の設立総会が行われ女性部が発会しました。

当日は、鹿追駐屯地原口司令より「東日本大震災復興支援活動」と題して防衛講話が行われ、女性部の他、近隣町民を含め多くの町民が集いました。

その後、夕食会が開かれ懇親を深めました。

女性部は、20代から80代までの166名の幅広い年齢層の方が参加されており、自衛隊協力会の後方支援ができるような活動を行います。部会員については、随時募集しております。お問い合わせください。

(取材・インタビュー) 上嶋和志

01 農業塾の修了式



01 農業塾修了生
北鹿追 村瀬治裕さん

平成23年度の01農業塾(農業後継者塾)の修了式が3月28日ピュアモルトクラブハウスで行われました。

当日は、第11期生が2年間の塾での研修を終えて卒業しました。

塾を終えたのは、村瀬治裕さん、木幡健二さん、中村俊介さん、櫻井健一郎さんの4名で塾長吉田町長をはじめ、来賓の方々の励ましの言葉を受け、それぞれ塾の教えを今後の営農に生かすなど決心を語りました。

移動塾で酪農学園大学の干場教授が「肥料を組合員がしっかりと使えば、農協の売り上げが伸びるところを畑の土壌分析をして減肥を勧めている」と鹿追町農協の姿勢を評価され、あらためて自分たちの農協の素晴らしさを知ったことです。

(取材・インタビュー) 上嶋和志

編集後記

3月から広報部に所属になった新人部員です、よろしくお願ひします。部会員全員で取材・インタビュー・コメントづくり、一つの「たより」を出すのに少しでも見やすく見てもらえる工夫をしています。笑いのある明るい雰囲気の中でいいアイデアを！と考え、町民に見てもらえる紙面作りに努めています。

議会広報部会員 台蔵征一

議会広報広聴常任委員会 広報部会

- 部会長 狩野 正雄
- 副部会長 武藤 敦則
- 部会員 台蔵 征一
- 上嶋 和志
- 山岸 宏